

I 自然環境

滝沢村レクリエーションセンター敷地は岩手山山麓部の東南部の一角姥屋敷に位置し、岩手県北西部、秋田県の県境に近く、盛岡や観光地としても有名になった小岩井牧場が隣接している。植生を規定する主な環境要因としてはとくに気候、地形、地質、土壌、人為的影響があげられる。

1. 気 候

レクリエーションセンター敷地にあたる姥屋敷は海拔350m付近ときわめて低い。また隣接している盛岡市は東北地方としてはもっとも寡雪地に属しているが、北上川を越えた西側は岩手県では比較的雪が多い。とくに姥屋敷より秋田県境にかけた岩手山一帯は、岩手県としてはもっとも雪の多い所となっている。最深積雪は特別には多くないが積雪期間120日以上と多く、日本海沿岸の多雪山地の特徴をよくあらわしている。また気温も低く12年間の最低気温が -7.23°C 、年平均気温が 8.98°C を示している。しかし植物にとっては冬季積雪による保温効果によりその生育の大部分が助けられている。



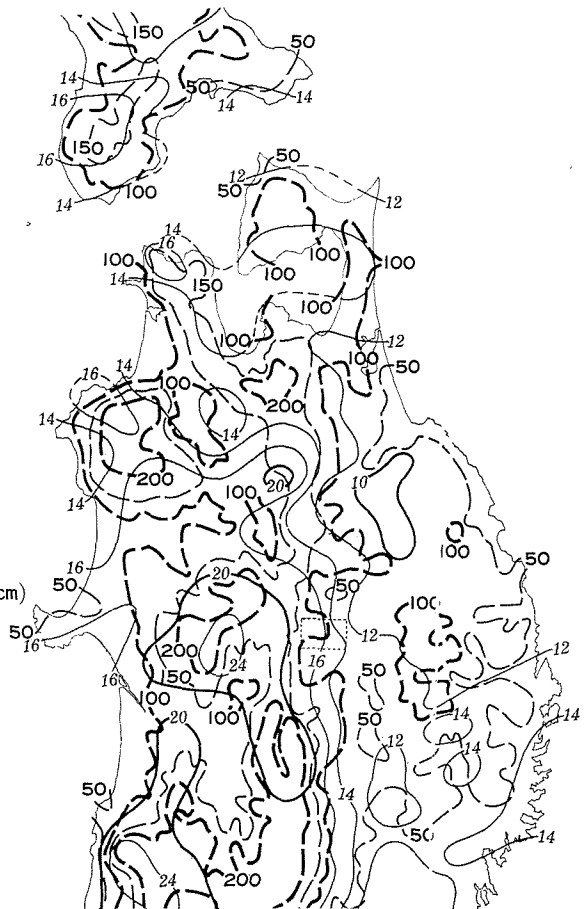
Phot. 4 岩手山冬季積雪期。

Winteraspekt des Berges Iwate mit Schnee.

Tab. 1 滝沢村における気候表 (カトー基礎調査研1975)
 Klimaangabe von Takizawa-Dorg (nach Bericht von Kato-Inst.)

| 月別 種別 Angabe | 1 Jan. | 2 Febr. | 3 März | 4 April | 5 Mai | 6 Juni | 7 Juli | 8 Aug. | 9 Sept. | 10 Okt. | 11 Nov. | 12 Dez. | 12年間の 平均 12 Jahre |
|--------------------------|------------------------|------------|-----------|------------|----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-------------------------|
| Mitteltemperatur der | | | | | | | | | | | | | |
| 気温(°C) Lufttemperatur | | | | | | | | | | | | | |
| 最高 Max. | 1.58 | 1.90 | 5.32 | 12.90 | 19.64 | 22.59 | 25.74 | 27.51 | 22.76 | 16.76 | 9.65 | 3.02 | 27.51 |
| 最低 Min. | -7.23 | -7.22 | -4.55 | 0.84 | 6.68 | 11.57 | 16.62 | 18.21 | 12.36 | 5.34 | -0.22 | -4.78 | -7.23 |
| 平均 Mittel. | -2.83 | -2.66 | -0.39 | 6.87 | 13.16 | 17.08 | 21.18 | 22.86 | 17.56 | 11.08 | 4.72 | -0.88 | 8.98 |
| 降水量 (mm) | Mittelniederschlag der | | | | | | | | | | | | |
| Niederschlag | 101.3 | 73.1 | 85.0 | 134.2 | 103.6 | 129.5 | 214.8 | 210.6 | 155.5 | 121.0 | 128.8 | 98.0 | 1555.4 |

Fig. 2
 東北地方における年降水量
 最深積雪分布図
 Verbreitungskarte der jährlichen
 Niederschlagsmengen und
 Mächtigkeit der Schneetiefe
 ———年降水量等値線(単位10cm)
 Verbreitungslinie der Niederschlags(10cm)
 - - -最深積雪等値線(単位cm)
 Verbreitungslinie der Mächtigkeit der
 Schneetiefe (cm)
 [Dotted Box] 調査地域
 Untersuchungsareale



2. 地 形

姥屋敷は岩手山東南部の山麓部に位置している。このあたり一帯は岩手山から流れるゆるやかなすそ野が一担急におりたち、海拔550m付近より小さな起伏(50~100m差)が多い地域を形成している。凹状地は湿地帯となり湿原やハンノキ林がところどころに残されている。姥屋敷は起伏のゆるやかな丘陵地で海拔438.15m~469.92mの一丘陵地を形成している。

3. 地質・土壌

姥屋敷は岩手山東南部に位置し、火山活動に西風の影響を受けたため[※]溶結凝灰岩が分布してい

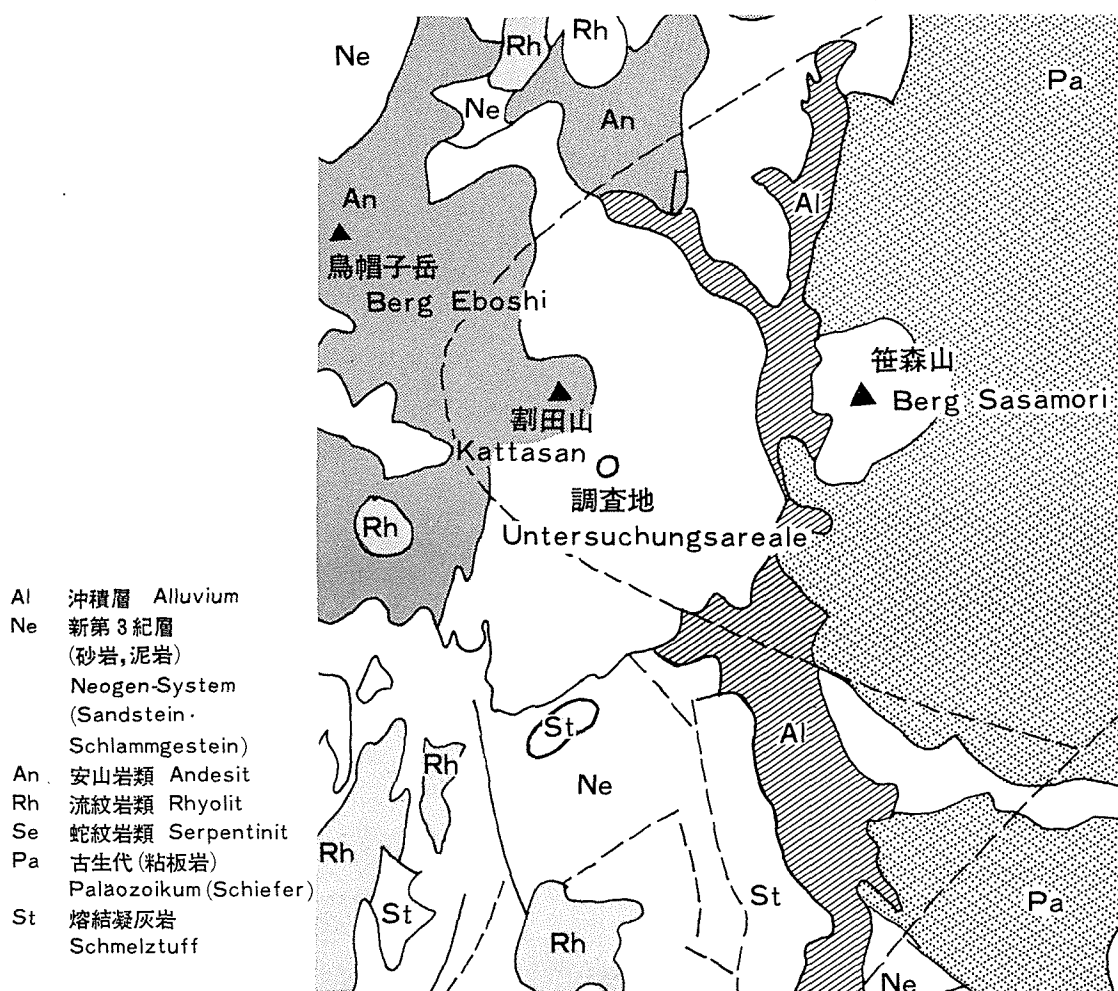


Fig. 3 岩手山周辺地質図 (カトー基礎調査研)

Geologische Karte vom Umkreis des Berges Iwatesan (von Kato-Kisochosaken)

※ 溶結凝灰岩：火山灰が噴出して高温状態で溶結した岩石

る地域である。

姥屋敷の土壌はおよそ地下40cm 付近までは腐植質を含んだ土壌や褐色森林土が分布しているが土中115cm 付近までローム土(火山灰)が堆積し、以下母岩となっている。岩手山山麓部の網張スキー場周辺のブナ林内の土壌断面と比較し、黒色土や褐色森林土の層が比較的浅く、下部のロームも含めて、きわめてち密になっている。

岩手山は盛岡市の北西部に位置し、海拔2,041mの休火山として知られ、八幡平(1,613.8m)、大松倉山(1,408m)、駒ヶ岳(1,637m)、烏帽子岳(乳頭山1,478m)等の休火山とともに那須火山帯に属している。岩手山は成層火山で、また新旧2個の二重円錐火山体を形成している。旧火山帯は褐輝石安山岩と橄らん石安山岩、橄らん石紫輝輝石安山岩の溶岩流・碎屑物等から成る外輪山とその山頂火口外輪壁(東西径3km、南北径2km)にとりかこまれた中央火口丘とで構成されている(カトー基礎調査研1975)。カトー基礎調査研による地質図が Fig. 3 に示されている。

4. 人為的影響

姥屋敷をはじめとして東北地方の海拔約600m 付近までの低山地帯は古くから地域住民の生活の場として利用され炭やき、開墾などにより人為的に植生が変えられ代償植生におきかえられている。自然植生はほとんど残されておらずスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ植林、15~25年に1~2回の伐採による薪炭林としての利用、放牧地、耕作畑地などあらゆる開墾の手が加えられている。最近では伐採によりスキー場建設を行ない赤裸の裸地や夏季に外来牧草や低木が茂る草原を形成している。これらの人為的影響は自然環境以上に植物群落を変化させている。